



ひがしまつやま
キッズ集合!

おしえて『文化財』

なぜ発掘調査をやるのか? ~埋蔵文化財の発見と保存~

今年、東松山市は市制施行70周年を迎えました。市制施行と同じ年の昭和29(1954)年8月に市内で初めての発掘調査が五領遺跡(若松町)で行われました。これ以降市内においては令和6(2024)年8月時点で約100遺跡、計400件の発掘調査が行われてきました。

発掘調査は、一度壊すと二度と戻すことのできない遺跡(埋蔵文化財)を、写真や図面などで記録するために行われます。工事等によって、どうしても土の中の埋蔵文化財が現状のままで保存できないため実施される緊急発掘調査が多いですが、市の歴史を紐解くために実施される学術発掘調査もあります。その地に刻まれた人々の歴史やその意義を多くの人が知り、将来にわたって伝えていくために日々調査が行われています。



五領遺跡で調査した住居跡
(若松町)



発掘調査の様子(観音寺遺跡)
(松本町)



短甲(武具)の取り上げ(東耕地3号墳)
(美原町)



三角縁神獣鏡の発見
(高坂)

問
埋蔵文化財センター
27-10333 FAX 27-10334

梶田先生と振り返る思い出の一コマ Vol.43

2018(平成30)年12月に、將軍塚古墳の歴史的意義や背景など多彩な視点から議論を交わすシンポジウム「野本將軍塚古墳の時代」を開催しました。古墳の造られた時期や、古墳の形、埋葬施設、副葬品など、9人の研究者が考えを述べ、その後行われたパネルディスカッションでは、古墳が造られた背景や被葬者像について議論がなされました。また文化財の保存と活用における、デジタル技術を用いた非破壊調査の重要性も話し合われました。

3D技術を用いると遺跡や遺構を壊すことなく調査できるんだよ。



このシンポジウムで將軍塚古墳が古墳時代前期における県内最大の古墳と認められたよ。

シンポジウム

「野本將軍塚古墳の時代」開催

2018(平成30)年



將軍塚古墳とは?



キャラクター紹介

市内の小・中学生に配布された学習漫画『漫画でわかる 梶田隆章先生とニュートリノ』のキャラクターたちです。

ニュートリノ三兄弟



電ちゃん ミューやん タウっち

梨花(姉)



歩(弟)



梶田隆章先生



東松山市生まれ。東京大学宇宙線研究所教授。1998年にニュートリノ振動の発見を発表。2015年にノーベル物理学賞を受賞。

